

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
分担研究報告書

高次脳機能障害者の社会的行動障害による社会参加困難への対応に関する研究

研究分担者： 島田司巳（社会福祉法人グロー 滋賀県立障害者総合診療所 所長）

研究要旨

前年度の支援困難事例の経過・問題点等を整理した点に基づき、滋賀県立むれやま荘の利用者事例、滋賀県高次脳機能障害支援センター相談事例、及び滋賀県立総合病院で診療された事例を選び、NPI、支援ニーズ票を支援者もしくは家族に実施した。この調査結果から社会的行動障害が顕著にあらわれている方の実態把握、対応方法について検討を行う。

A．研究目的

高次脳機能障害において、社会的行動障害は社会生活を送る上での障害因子となりやすい。また、社会的行動障害が顕著にあらわれている事例の実態は未だ把握されていない状況にあると言える。そのため、滋賀県下に於ける高次脳機能障害事例を選出した。支援者もしくは家族に対し NPI、支援ニーズ票を実施し、社会的行動障害と介護負担の連関を基に社会的行動障害の症状・重症度の整理や対応方法を検討する。

B．研究方法

前年度の支援困難事例の経過・課題等を整理した点に基づき、滋賀県立むれやま荘の利用者事例、滋賀県高次脳機能障害支援センター相談事例、及び滋賀県立総合病院で診療された事例を選び、NPI、支援ニーズ票を支援者もしくは家族に実施する。

（倫理面への配慮）

検査を実施するにあたり、調査への協力は自由意思によるものとする、研究目的や方法、結果の処理、個人情報取り扱いについて等を記載した依頼文書を用いて口頭で説明を行い、同意を得た上で実施した。

C．研究結果

調査事例を 20 例選出し、10 例の事例票の作成及び検査を実施した。また、単身生活等で NPI・支援ニーズ票の調査が実施不可能な事例について 3 例の事例票を作成した。

次年度も引き続き調査を継続し、社会的行動障害の重症度の指標、対応法について検討する予定となっている。

D．考察

NPI 及びニーズ票による検査を実施した結果では、家族の介護負担が強くでる項目としては興奮・脱抑制・易怒性・異常行動・夜間行動が主なものであった。また、負担度において受障以前の性格・家族関係や介護者と当事者の家族構成(夫-妻、母-子ども、兄弟など)が、社会的行動障害や負担感の捉え方に影響を与えていると考えられた。

E．結論

調査を通し、社会的行動障害への対応方法を検討するには当事者の要因だけでなく様々な要因を検討していくことが必要であると考えられる。

F．健康危険情報

特記なし

G . 研究発表

1. 論文発表

小西川 梨紗「シンポジウム : 高次脳機能障害 : 社会的行動障害支援と展望 社会福祉法人から見た社会的行動障害」高次脳機能研究 37 (3): 301 ~ 307 , 2017

田邊 陽子「地域包括ケアシステムにおける在宅支援について ~ 滋賀県の高次脳機能障害者支援の実際と課題 ~ 」滋賀社会福祉研究 第 20 号

2. 学会発表

島田司巳, 三田村麻奈「小児期に外傷性の脳損傷を負った 1 症例の半世紀から学ぶ 経過と問題点 - 」第 35 回滋賀県社会福祉学会 2017 年 3 月 16 日

島田司巳, 田邊陽子, 小西川梨紗, 三田村麻奈「高次脳機能障害者への ICF の概念を元にした生活訓練の提案」第 36 回滋賀県社会福祉学会 2018 年 2 月 22 日

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

H . 知的財産権の出願・取得状況